

〈小学校外国語活動〉

伝え合おうとする態度を育成する授業の工夫 ——絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して（第5学年）——

北中城村立北中城小学校教諭 下 地 洋 子

I テーマ設定の理由

現代は、情報化、国際化が進展し、異文化がますます身近になっている。国際社会のなかで国と国や個人と個人が相互理解をするためには、自分の考えや気持ちを伝える力が求められ、コミュニケーション能力の育成は必要不可欠だといえよう。このような流れの中で、文部科学省は、小学校に外国語活動を新設し、「コミュニケーション能力の素地」を育成することを目的として、平成23年度から小学校第5学年と第6学年に外国語活動が必修化することとなった。そして、今年度から各学校に共通教材として「国際理解につながるようなテーマや活動を中心に、それを表現するための英語を身につける。」という内容の「英語ノート」を配布している。

本研究の対象である5年生37名への事前アンケート調査で、「英語の授業は楽しい」と回答している児童は97%であり、ほとんどの児童が英語の授業を楽しみにしていることがうかがえる。また、「英語を使えるようになりたいですか」では84%の児童が英語を使えるようになりたいと回答している。この結果から、「英語ノート」のデジタル教材を活用し、視覚に訴える等の工夫で児童の興味・関心が高まっているものと考えられる。「人前で発表するのが好きですか」の問いでは、66%が肯定的に答えているものの、34%は「恥ずかしい、間違ったらどうしよう」と回答し、児童は英語を使って皆の前で話したり発表したりするのに課題があることがうかがえる。このことから、児童が学び得たことを英語で表現したり互いの考えを出して伝え合おうとする態度を育成することが必要だと考えられる。

そこで、本研究では、児童が発話した言葉を肯定的に受け入れ、活動に参加しやすい雰囲気づくりや個々の児童の思いが伝わるような授業の工夫・改善を図りたい。児童が活動に参加しやすい形態として、ペアワークやグループワークが有効だと考える。また、個々の児童の思いが伝わるような授業の工夫を図るために絵本を活用したい。「英語ノート」の単元「できることを紹介しよう」では、絵本を活用してペアワークで「自分はできる」の言語材料で“can”を活用して様々な表現を学び、自分にできることをペアで尋ねたり答えたりすることで慣れ親しませる。グループワークでは既習表現を活用し、互いに助け合い尊重し合って、自分の考えや思いを表現し、人と関わり学び合う活動を工夫する。また、単元の導入では、環境問題など教室から世界を考えるようなメッセージ性のある絵本の読み聞かせを行い、そのメッセージをもとに、児童がグループで自分の思いや考えを膨らませ、オリジナルスキットをつくっていく。グループでのオリジナルスキット発表では、質疑やコメントを行うなど、他のグループの発表を相互に理解できるようにしたい。絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して、表現できた喜びと感動を味わわせ成功体験を多くし、伝え合おうとする態度を育成したいと考える。

〈研究仮説〉

単元「できることを紹介しよう」において、絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して、個々の児童が考えた英語表現が相手に伝わることで得られた達成感とともに、伝え合おうとする態度を育成することができるであろう。

II 研究内容

1 伝え合おうとする態度の育成について

(1) 伝え合おうとする態度とは

新学習指導要領の外国語活動の目標は「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションの能力の素地を養う」である。また、外国語活動の内容1の外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るための指導事項として「①外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る楽しさを体験すること、②積極的に外国語を聞いたり、話し

たりすること、③言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること」とある。このことから、小学校の外国語活動では、児童にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが重要だと言える。そこで、伝え合おうとする態度とは、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と捉える。

新学習指導要領（第3章 第2節）では「コミュニケーションの働きの例(ア)相手との関係を円滑にする (イ)気持ちを伝える(ウ)事実を伝える(エ)考えや意図を伝える(オ)相手の行動を促す」としている。コミュニケーションを図るとは、事実や思いを伝えながら、よりよい人間関係をつくることと考える。

(2) 伝え合おうとする態度の育成と方略的能力

大城賢・直山木綿子ら(2008)は、「小学校の外国語活動においては、体験的な活動によって語彙などの不足を補ってコミュニケーションを続けていく手段として方略的能力を最大限に活用しながらコミュニケーションを楽しむこと」を強調している。これまでの外国語活動の授業を考えると、英語表現がわからないとコミュニケーションができなくなり、対話が続かなくなった。小学校では語彙力の不足を補う手段としては、言葉以外のジェスチャーや絵等で相手に伝えようとする方略的能力の活用が有効だと考える。

本研究では、絵本を活用したオリジナルスキットをつくる過程で、児童が英語で事実や思いを伝える際には、方略的能力を活用し、ジェスチャー、実物、写真や絵などいろいろな方法を使って事実や思いを伝えようと工夫したり、相手の言いたい事を理解しようとしながら積極的に人と関わり、伝え合おうとする態度を育成したいと考える。

また、伝え合おうとする態度面のよい変化として、友だちに対して“You can do it.”と声を掛けたり、物を渡されたときに“Thank you”“You’re welcome”と応答できる等がある。相手の発言に興味を持っている態度を示す表現は、“Really?”(ほんとう?), “Wow”(わー, すごい!)や、間をもたせる“Let me see”(そうですね)“Well”(そうですね, えっーと)“OK”(わかりました)等がある。場面に合った対話が続く声かけができ、“Help each other”互いに助け合い、“Respect each other”尊重し合って事実や思いを表現し、積極的に人と関り学び合う活動をすることで、“Understand each other”相互理解し、伝え合おうとする態度の育成につながると考える。

2 オリジナルスキットづくりについて

(1) 絵本の有効性について

影浦攻・直山木綿子ら(2006)は、絵本の読み聞かせ・スキット作成の小学校英語での有効性について、「①絵本の絵が、児童の話しの状況理解を助ける。②教室という限られた時と場に、リアルな時と場を提供してくれる。」と述べている。絵本には、様々な展開がある。単に英語のリズムを楽しむもの、ストーリー性のあるもの(起承転結がある)、メッセージ性のあるものなどがあり、絵本の展開によって、活動が設定しやすい。ストーリー性のあるものは、そのストーリー性を大切にし、児童に独自にストーリーの一部を変えたり、扱われている単語を変えたりして、独自のストーリーを作らせる活動が考えられる。さらに、メッセージ性のあるものは、そのメッセージを大切にし、児童に自分たちの意見、思いを発表させる活動を仕組むことができる。

そこで、本研究では、絵本を活用することで、絵を見て状況理解ができ、英語の語句や文章に慣れ親しむことや話の内容を理解することができ、さらに、その話を基にして、様々な考えやアイデアが広がりスキットづくりに有効だと考える。スキットをつくる過程で、話にまつわる対話をする機会が多くなることから伝え合おうとする態度が育成されると考える。

(2) オリジナルスキットについて

スキットについて影浦攻・直山木綿子ら(2006)によると、「言いたいこと、表現してみたいことを、ある型にはめると、児童もいやすく、表現しやすくなる。あたえられた型に自分が選択した単語を入れていくと一定のことが表現できる。この積み重ねによって、児童は様々な表現を自分のものにしていくことが可能になる」と述べている。本研究では、メッセージ性のあるスピーチや絵本の表現に慣れ親しませ、絵本の続きを児童が考えオリジナルスキットにしていく。教師の手立てとして、絵本の続きを作成した絵を見せたりオリジナルスキットをALTとロールプレイしたりして児童のスキットづくりのモデルになるようにする。児童は教師の示したオリジナルスキットの型をグループで話し合い、作り変えることでオリジナリティを持たせる。スキットを行う際に、既習の言語材料を使うとともに自分の思いを伝えるために必要な未習の語句や表現をHRTやALTに尋ねる

ことで伝え合おうとする態度も育成されると考える。また、スキットはすべて英語表現を使うのではなく、ジェスチャーや絵を使って表現できることも伝え合おうとする態度につながることを指導しておく。オリジナルスキットができれば、声の大きさや、ジェスチャーの大切さを確認した後、発表を行う。発表後は質疑したりコメントさせたりして互いのスキットを相互理解する。オリジナルスキットの発表後は他のグループのスキットから様々な表現や内容を学ぶことができ伝え合おうとする態度の育成が図られると考える。図1はオリジナルスキットづくりの流れである。

(3) 活用する教材について

「英語ノート」の単元「わたしにできることを紹介しよう」では、絵本『What can you do?』と『ハチドリの一としずく』を活用する。この2冊の絵本は、高学年の知的好奇心を刺激し児童にとって身近な事例を通して環境問題を考えることができ、グループで話し合うことで考えが膨らみ伝え合おうする活動ができる教材だと考える。第2時で絵本『What can you do?』で動物たちの「できる」「できない」の英語表現に慣れ親しませる。第3時で地球温暖化につながるメッセージ性のある絵本『ハチドリの一としずく』の読み聞かせの後には、「森の火を消すためにハチドリが口ばしで水をひとしずくずつ運び私は私にできることをしているだけ」と言っているハチドリの言葉を通して自分たちに「できる」ことを考えながら教師と児童、児童と児童間の思いや感情を伝え合い、教室から世界について考え、物語の続きをつくりスキットにしていく。オリジナルスキットづくりを通して児童の考えが膨らみ、思いを伝えたい教材として絵本を活用する。

(4) グループワークの有効性について

大下邦幸(1996)によると、「インターアクションを行わせるのに効率のよい学習形態の1つにペアワークやグループワークがある」と述べている。あるトピックについてペアやグループで対話させれば、一斉に全員がコミュニケーションできる。パートナーを変えれば、同じトピックでもう一度話を

して、前の対話で使った表現をよりスムーズに適切に使えるようになる。友達の使った表現がインプットされ、それを使用することもできるようになる。同じトピックでパートナーを変えて何度かやりとりをするうちに、そのトピックについて、より深く話し合えるようになり、それが自信にもつながることがある。その他、グループワークによるコミュニケーションの有効性は、表1に示している。ペアワークやグループワークは、安心感のある雰囲気の中でリラックスしてコミュニケーションすることができる。本研究では、児童が活動に安心して活動に参加できるように、絵本の続きを話し合っ思考を広げる場面のオリジナルスキットづくりから発表までグループワークの形態にする。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「できることを紹介しよう」

2 単元の目標

- ショー・アンド・テルで発表することに興味を持つ。

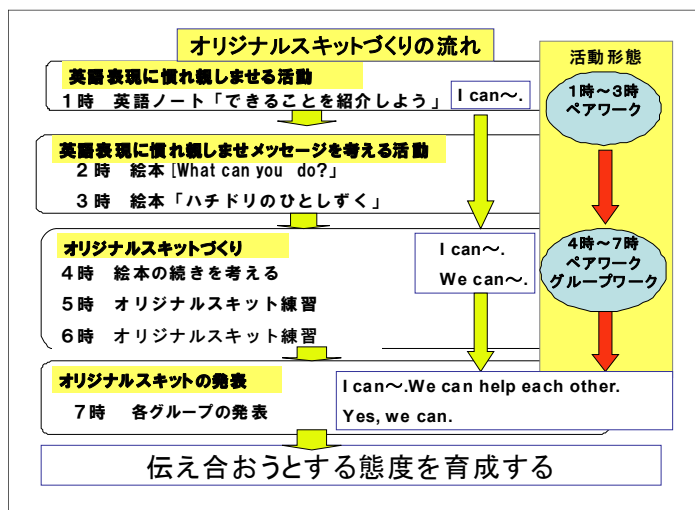


図1 オリジナルスキットづくりの流れ

表1 グループワークによるコミュニケーションについて

- ① コミュニケーション・パターンが多様化する。
- ② 心理面での抵抗が少なくなる。
- ③ 参加意欲が活性化される。
(自己責任の自覚、仲間の意見に対する興味)
- ④ 困難の克服がより容易になる
- ⑤ 背景知識を共有していることにより共感が得られやすい。
- ⑥ 相手に伝わるようなコミュニケーションを意識するようになる。

- 積極的に友だちに「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりする。
- 「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。
- 「できる」「できない」表現を使ってスキットをつくり発表する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語の音声や基本的な表現	言語や文化に対する 気づき・理解
①できること、できないことの表現を知り、意欲的に聞こうとする。 ②身近な英語表現を聞いたり簡単な英語表現を使って伝え合おうとする。	①学んだ単語や英語表現を使って尋ねたり答えたりする。 ②発表の際に英語表現に合わせて絵やジェスチャーで自分の思いを表現している。	①「できる」「できない」を使った表現が聞ける。 ②新しく習った単語や既習の英語表現、発表している友だちの英語表現が聞ける。

4 指導と評価の計画

	学習目標と言語材料	学習活動	評価規準と評価資料		
			態	表	理
1	○「できる」「できない」の表現を知り、慣れる。 I can do. You can do. We can do. I can swim. I can fly. I can walk. I can't swim.	・オバマ大統領のスピーチのなかからcanの表現を知る。 HRTとALTが読み聞かせをする。 ・『英語ノート2』(P24)ALTのせりふを聞きどんな動物か想像する。	①	①	行動観察 ワークシート 振り返りカード
2	○相手の話を積極的に聞き何ができて何ができないのかを聞こうとする。 「What can you do?» I can swim. I can't fly. I can dive. I can help. I can smile.	・絵本の読み聞かせをする。 「What can you do?» HRTとALTと児童で掛け合う。 絵本の登場する動物の名を表す言葉を覚える。	①	①	行動観察 ワークシート 振り返りカード
3	○友だちと互いにどのようなことができるかを尋ねたり、答えたりする。	・「ハチドリの一としずく」の絵本の読み聞かせ後、「できる」「できない」を尋ねたり答えたりする。		①	①
4	○グループで絵本の続き「私は～ができる」のスキットをつくる。 What can you do? I can swim. I can't swim. I can fly. I can't fly.	・既習の表現を活用してグループで、絵本「ハチドリの一としずく」の続きのオリジナルストーリーをつくる。 ストーリーをスキットにしていける。	②	②	行動観察 ワークシート 振り返りカード
5 6	○グループで「私は～ができる」のスキットの練習をする。 What can you do? I can swim. I can fly. I can walk.	・オリジナルスキットをグループで協力して練習する。 ・発表の準備をする。(絵を描いたりジェスチャーで表現したりする)		②	②
7 本時	○自分ができることを発表したり、友だちの発表を聞いたりする。 What can you do? I can't fly. I can help.	・グループでつくったオリジナルスキットの発表をする。 ・他のグループの発表をよく聞く。	②	②	行動観察 ワークシート 振り返りカード

5 本時の指導（7／7）

(1) 本時のねらい

- グループで協力して、既習の英語表現を活用してオリジナルスキットの発表をする。
- 他のグループの発表を聞き、発表の工夫や相手への伝え方等、そのよさに気づく。

(2) 授業仮説

- オリジナルスキットを発表する場において、グループで協力し、既習の英語表現を活用した表現や他のグループの発表を聞き、聞いた内容に対してコメントしたりする等、児童同士がスキットの内容に対して応答することで伝え合おうとする態度が培われるであろう

6 本時の展開

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・指導上の留意点 ◎評価の観点<方法> ◆国際理解の視点
挨拶		Let's start English class. (日直)		・これから授業が始まることを意識

挨拶 (5)	1. 挨拶をする。 Hello. I'm good/fine/ sleepy/hungry).	1. 全体に挨拶する。 Good morning. How are you? How is the weather? What the day today? 数名の児童と挨拶する。	させるように、指導者は元氣よく 挨拶をする。
導入 (5)	2. クイズに答える。 ①「アメリカのオバマ大 統領だね。」 I can do. You can do. Yes, we can do. We can change. ②「ワニかな。」 「ペンギンかな。」 「鳥だね。」 ③「鳥かな。」 「カバかな。」 「カバだね。」	2. What can you do? I can swim. の学んだ既 習の表現を復習するためクイズを出す。 ・ALT のセリフを聞いてどのような動物か推 測するように告げる。 ① 第1問ヒントを聞いて誰か当てる。 ・Who am I? Hint please. (Y) I can do. You can do. Yes, we can do. We can change. (L) President Obama. ② 第2問ヒントを聞いてどんな動物か当てるよ う告げる。What animal is this? I can fly. I can't swim. It's a bird. ③ 第3問ヒントを聞いてどんな動物か当てる よう告げる。What animal is this? I can swim. I can't fly. I have a big mouth. *It's a hippo.	・英語ノートのP24ページ を黒板に写しておく。 ・英語ノートのデジタル教材を活用 してこれまで学んだことをクイズ にして出すことで、“can” “can't”を含む英語表現の復習を する。
展開 (30)	3. 今日のテーマを 確 認する。 「ハチドリのひとしず く」の絵本の内容の確 認をする。	3. テーマ「オリジナルスキットを発表しよう」 を確認する。「ハチドリのひとしずく」の絵本 の内容を確認する。(ロールプレイをする) It's story time. What can you do? The story of the humming bird. The forest was on fire. fire. fire. What? Oh, my god. I am bear. I can guard. Really?	・「ハチドリのひとしずく」の手作り 拡大絵本を見せて内容の確認をする。
	4. オリジナルスキットの 練習をする。 5. グループによるオリ ジナルスキットの発表 をする。 6. グループの発表後 ペアで評価カードを記 入し、感想の発表をす る。 7. 全グループの発表 が終わったらグループ で8つのグループのス キットについて良さや 気づいたことについて 話し合う。 8. グループで話し合っ て感想の発表をする。	4. グループでのス キット練習の支援 をする。 5. オリジナルスキ ットの発表をさせ る。(発表が終わ った拍手をしなが ら賞賛する) 6. 発表を聞いて いる側に質問や コメントをさせ る。(評価カード に記入する) 7. グループでの話 し合いをさせる。 8. 感想の発表を させる。	◆地球温暖化に関連するスキットを つくり、そのスキットを練習し発 表することにより外国語を習得す ることの楽しさを実感させる。 ・聞いている側にも、単に聞くだけ でなく、聞き終わった後と声をかけ たり話の内容にコメントを言う ことでコミュニケーションを図る 大切さを理解させるようにする。 ◎グループのオリジナルスキットを 聞いてできることやできないこと がわかる。 <行動観察> ・各自のワークシートやグループ評 価シートを基に話し合わせる。
まとめ (5)	8. 本時の振り返りをす る。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	8. 主に英語を使おう とする態度面につ いて評価する。 Good-bye. See you.	・主に英語を聞いたり、話 したりすることについて 評価する。 Good-bye. See you.

(6) 評価

- グループで協力して、オリジナルスキットを発表した。
- 他のグループの発表を聞き、よさに気づいた

(7) 本時の評価

本時の評価は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」・「表現の能力」・「理解の能力」を評価する。その際の判断の状況として、A「十分満足できる」、B「概ね満足できる」、C「支援・手だてが必要」とし、Cの欄には、具体的な支援や手だてを記述する。

7 評価の方法

観 点	活動内容	評価規準 (到達目標)	判断基準		
			十分満足 A	概ね満足 B	Cへの手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○友だちと協力してオリジナルスキットの発表をしたり他のグループの発表を聞いたりす	☆身近な英語表現を聞いたり簡単な英語表現を使って伝え合おうとす	★友だちと関わりながら積極的に英語表現や身体表現を使って伝え合うことを楽	★友だちと関わりながら身近な英語表現を聞いたり使ったりして伝え合	★声を出すのに照れを感じる子には、声かけをしながら教師も側で助

	る。	る。	しんでいる。	おうとする。	言する。
表現の能力	○既習の英語表現や新しい英語表現、身体表現などをとり入れたたりしながら、グループで協力してスキット発表をする。	☆発表の際に英語表現に合わせて絵やジェスチャーで自分の思いを表現する。	★発表会で、英語表現や身体表現をとり入れながら自分の思いを表現する。	★発表の際にで自分の台詞を言ったり友だちと一緒に表現したりする。	★一緒に英語表現や動作などを考えたり、側で一緒に表現する。

8 仮説の検証

研究サブテーマの「絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して」により、研究テーマの「伝え合おうとする態度を育成する」ことができたかについて、各時の振り返りワークシートや児童の発表、感想、行動観察、検証授業前・検証授業後のアンケート調査結果、ビデオによる行動観察により検証する。検証授業を行うにあたり、指導計画全7時間の授業仮説を以下のように立てた(表2)。

表2 単元名「できることを紹介しよう」全時の仮説表

時間	形態	授業の概要	授業仮説
1時	ペア	・よい伝え方を体感させる。 ・英語ノートの「できる」「できない」の英語表現に慣れ親しませる。	・導入の場面でペアトーキングゲームをすることでよい伝え方を体感できるであろう。 ・「できる」「できない」の表現を習得する場面で、クイズの問題や答えの表現を練習することで、英語表現に慣れ親しませることができよう。
2時 3時	ペア	・絵本「What can you do?」や「ハチドリのひとしずく」の英語表現に慣れ親しませる。	・「できる」「できない」の英語表現を習得する場面で、絵本を活用することで、絵本のメッセージを考え友だちと互いに思いを伝え合おうとすることができるであろう。
4時 5時 6時	グループ	・グループで絵本の続きをつくりオリジナルスキットの練習をする。	・グループで絵本の続きのオリジナルスキットをつくる過程で、友だちと互いに自分の思いや考えを出し合って練り合うことで伝え合おうとすることができるであろう。
7時	グループ	・オリジナルスキットの発表をする。	・オリジナルスキットを発表する場において、グループで協力し、既習の英語表現を活用した表現や他のグループの発表を聞き、聞いた内容に対してコメントしたりする等、児童同士がスキットの内容に対して応答することで伝え合おうとする態度が培われるであろう。

(1) 絵本を活用したオリジナルスキットづくりの有効性

① ペアトーキングを通してよい伝え方が体感できたか〔第1時〕

事前のアンケート結果から皆の前で英語で発表することに課題があった。そこで、単元の導入の場面で、30秒ペアトーキングゲームで自分のことを伝え合う時のよい態度と悪い態度に気づかせる活動を行った。ペアで一方が30秒自分のことを紹介する間、相手の目を見てうなずきながら聞く活動(写真1)と相手を見ずして話を聞かない活動を行った。伝え合う時の相手が話したくなる聞きたくなる態度をゲームで体感させることで、友だちとグループでのオリジナルスキットづくりの際よりよい伝え方を実感させた。また、児童が英語で事実や思いを伝える時は、言葉やジェスチャー、実物、写真や絵等言葉以外の方法があり、工夫して伝えたり相手の言いたい事を理解しようとしてうなずきながら聞くことで互いに対話が長くことができるなどを示した。



写真1 ペアトーキングゲーム
(相手の目を見て話す)

多くの児童が「自分が話をしている時、相手が、自分の目をしっかり見ていると、話がしやすくてとてもいい気持ちになった。しかし、自分が話をしているのに、相手が自分の目をみないで話も聞かないで遊んでいたら、いやな気持ちになった」「英語がわからない時は、ジェスチャーなどで伝わるんだと思った」という感想だった。振り返りカードから、「授業がよくわかりましたか」では「よくわかった」78%、「わかった」22%を合わせると100%だった。相手の気持ちを考えたゲーム活動を通して、コミュニケーションする際のよりよい伝え方を体感できた。

② 「できる」「できない」の英語表現になれ親しませることができたか〔第1時〕

「できる」「できない」の表現に慣れ親しませることをねらいとして、ICT活用して『英語ノート2』のLesson4の“What animal is this?”クイズや“Who am I?”のクイズを通して動物や人間の「できる」「できない」の表現を視覚に訴えて理解させる活動を行った。クイズを出す時は、

ALTがジェスチャーをともなった英語表現を聞かせた。“Who am I?”「私は誰ですか」で、児童が聞き慣れたオバマ大統領の「できる」を使った表現のクイズに答えたり、“What animal is this?”「これは何の動物ですか」で、動物の「できる」ことや「できない」ことのcanを活用した表現のクイズの答えを考える活動を行ったところ、「canは短い言葉だけれどすごい」「できる」という言葉は自分にも何かできそうだと感想があった(表3)。また、授業後の振り返りカードから『私はできる』の活動は楽しくできましたかの質問に「楽しくできた」「できた」を合わせると100%であった。「授業がよくわかりましたか」でも「よくわかった」78%、「わかった」22%を合わせると100%だった。“Who am I?”クイズや“What animal is this?”のクイズを通して、canを使った表現の興味・関心を高め、「できる」「できない」の表現に慣れ親しませることができた。

表3 児童の感想

- ・ can は短い言葉だけれどすごい。
- ・ できるという言葉は自分にも何かできそう。
- ・ 動物たちのできるできないがわかった。
- ・ 自分のできるの短い言葉が友だちに伝わったので今度他の人にも話してみたい。
- ・ 英語がわからない時は、ジェスチャーなどで相手に伝わるんだと思った。

③ 絵本のメッセージを考え友だちと思いを伝え合うことができたか〔第2・3時〕

第2時では、絵本『What can you do?』を第3時では、絵本『ハチドリの一とずく』を英語で読み聞かせを行った。これらの絵本は「私にできること」から「私たちにできること」へと思考を広げることができる教材である。絵本の内容が児童に伝わるようにHRTとALTがロールプレイを行った。HRTは表情を、ALTはジェスチャーの工夫をしながら読み聞かせを行った(写真2)。



写真2 英語で絵本の読み聞かせ

第2時では、『What can you do?』の絵本で、動物の「できる」「できない」を使った表現から自分の「できる」「できない」の表現につなげた。ペアで尋ねたり答えたりすることで絵本の英語表現を習得させながら絵本の内容を考え慣れ親しませた。

表4 児童の感想

- ・ 動物はいろんな事ができるけど、人間もいろんな事ができるんだと思った。
- ・ 前より「できる」「できない」の意味がよく分かって、使い方もよく分かった。
- ・ “I can” の意味がよく分かって、使い方もよく分かったので勉強になった。
- ・ 「できる」、「できない」の短い言葉で環境やエコのことがこんなに伝わるんだと思った。

第3時では、絵本『ハチドリの一とずく』の読み聞かせを行った。この作品は地球温暖化につながるメッセージ性のある内容である。「森の火を消すためにハチドリが口ばしで水をひとしずくずつ運び私は私にできることをしているだけ」と言っているハチドリの言葉を通して自分たちに「できる」ことを考えながらペアで「できること」の英語表現を習得していった。「大切なことを伝えるために恥ずかしがらずに英語を使おうと思いますか」では「よく使おうと思う」47%で、「使おうと思う」が53%で計100%だった。また、「絵本を活用した授業は楽しかったですか」でも「とても楽しかった」79%、「楽しかった」21%を合わせると100%だった。また、児童の感想には「動物はいろんな事ができるけど、人間もいろんな事ができるんだと思った」とあった(表4)。絵本を活用することで、地球温暖化に対しての意識が高まり、自分にできることや思いを友だちと伝え合うことができた。

④ オリジナルスキットづくりで自分の考えを伝えることができたか〔第4～6時〕

絵本「ハチドリの一とずく」の物語の続きを考え練習する場で、グループは男女混合で4～5人で編成した。グループ活動の前に、教師が考えたオリジナルスキットの絵本を示しALTとジェスチャーを多く取り入れたロールプレイをすることで児童の表現力が膨らむような手本を見せた(写真3)。また、児童同士のよいコミュニケーション活動を行うための手立てとして、評価カードを作成し、グッドマナー、グッドジェスチャー、グッドスマイル、グッドボイス等表現することに対する具体的な評価項目配布して説明した。



写真3 HRTとALTのロールプレイ

各グループで自分達のグループの課題を把握させ、めあてをもたせてよりよく伝える活動をす

るための評価の工夫を図った。その後、グループで、児童一人一人が自分にできることを既習の英語表現を使って考える活動を行った。スキットをつくる過程で、自分の思いを友だちに伝えたり練り合ったりしながらオリジナルスキットにしていた。グループ活動で友だちとスキットの内容等を話し合うことで発想が広がり、相手の気持ちになってわかりやすく表現するために絵を描いたりやジェスチャーを考える等の工夫していた(写真4)。表5は児童がつくったオリジナルスキットの英語表現である。



写真4 絵の作成

表5 各グループのオリジナルスキットの英語表現例

	非言語	使用した英語表現 (下線は新しい英語表現)
1	絵 ジェスチャー	I am a bear. I can't fly, but I can <u>run fast</u> . I am a swallow. I can swim, but I can tell. I am an elephant. I can put out fire.
2	ジェスチャー	I am a monkey. I can't swim, but I can jump from tree to tree. I am a whole. I can't fly but, I can water. I am a rabbit. I can jump.
3	絵 ジェスチャー	I am a bear. I can't fly, but I can run fast. I am a swallow. I can swim, but I can tell. I am an elephant. I can put out fire.
4	絵 ジェスチャー	I am a bear. I can't fly, but I can run fast. I am a swallow. I can swim, but I can tell. I am elephant. I can put out fire.
5	絵 ジェスチャー	I am a rabbit. I can't swim, but I can run. I am a bear. I can't tell but I can climb. I am hippo. I can tell
6	絵 ジェスチャー	I am a rabbit. I can't fly, but I can run and jump. I am a giraffe. I can't jump, but I can run. I am zebra. I can help.
7	絵 ジェスチャー	I am a bear. I can't sleep, but I can tell <u>bee and fish</u> . I am an elephant. I can run but I can get the water. I am a penguin. I can put ice on the fire.
8	絵 ジェスチャー	I am an elephant. I can't fly, but I can <u>water with my nose</u> . I am a bear. I can't fly, but I can climb the tree. I am a penguin. I can <u>run away</u> .

7グループのオリジナルスキットの内容は「森が火事になった。火事だ！火事だ！本当？大変だ。私は熊です。寝ることができない。火事だとミツバチや魚に伝えることができる。私は象です。私は走ることができないが自分の鼻で水をかけることができる。私はペンギンです。私は、氷を火に投げることができる。それはいいアイディアだ。やってみよう。私は手伝うことができる。私たちは地球を救うことができる。そう私たちはできる。」である。既習の英語表現や新しい英語表現と合わせて絵やジェスチャーも入れたオリジナルスキットをつくっていた。グループで、話し合っって登場人物を決め、その登場人物の言葉は既習の英語表現を活用してつくっていたが、わからない英語表現はALTに聞いて覚えていった。児童同士が思いを伝え合ったり、教師やALTに質問したりしながら伝え合おうとする態度が見られた。

児童の感想では、「オリジナルスキットづくりは大変だったけど楽しい」「勉強になった」「ハチドリを見て僕も協力したいと思った」「私の努力で地球が助かる」「これからは地球温暖化のことをみんなに知らせたい」「最初は声が小さくてジェスチャーもぜんぜんできなかったけど練習をやっていくうちにだんだんできてきた」などがあつた。また、「人や地球のためになることを伝えることは大切ですか」の問いに「とても大切」84%、「大切」16%で肯定的に答えているのが100%である。また、「大事なことを伝えるために恥ずかしがらずに英語を使おうと思いますか」では「よく使おうと思う」47%、「使おうと思う」53%で肯定的に答えているのが100%あつた。このオリジナルスキットをつくる過程で大事なことは恥ずかしがらずに工夫をしながら伝え合おうとしていことから、グループでのオリジナルスキットづくりは、発表が苦手な児童も友だちに助けられて自分の考えを伝えることができた。

⑤ グループによるオリジナルスキットの発表はできたか〔第7時〕

第7時の導入で、オリジナルスキットに必要な英語表現をクイズゲームやキーワードゲームをしながらALTの発音に続いてくり返し練習させることで英語表現に慣れさせ、児童の緊張をほぐし、安心感をもってグループでのオリジナルスキットの練習や発表ができるようにした。また、グループで発表の心構えを確認したり台詞やジェスチャーのチェックをしたりする時間をとった。

「オリジナルスキットの発表をしよう」では、評価シート(表情、ジェスチャー、声、マナーの三段階評価)を使って、発表する時の指標にした。発表グループは絵やジェスチャーを工夫して

発表することを心がけ、友だちと助け合って発表することができた（写真5）。聞き手は評価シートに前述の評価項目を記入し、よかった点やわからない点等をコメントして発表グループと聞き手の相互理解を図るようにした（表6）。「他のグループの発表が理解できたか」の問いに、「よくわかった」「わかった」と答えた児童が100%だった。



写真5 スキット発表 Yes, we can.

表6 児童のコメント

- ・アニマルガッツだぜグループは表情や声の大きさがばっちりでした。ファイアーのところをみんなで逃げ回って工夫していたのがすごかったです。
- ・ミラクルアニマルグループの幸輔さんの表情とジェスチャーを見て楽しかったです。
- ・ピースイマージンのグループの声が大きくてジェスチャーもわかりやすかったのがよかったです。
- ・ピースイマージングループは、絵をいっぱい使っていて声も大きくて、とても工夫していたのがよかったです。

既習の英語表現や新しい英語表現を使ってオリジナルスキットの発表をすることで言葉によらないジェスチャーや絵等を使った伝達手段も相手に自分の思いを理解させるのに効果的であった。「友だちと一緒に考えることができた」等オリジナルスキットの発表後の児童の感想として「最初は声が小さくてジェスチャーもぜんぜんできなかったけど練習をやっていくうちにだんだんできてみんなで助け合うことが大切だとわかった」「みんなで協力すると何かできるということがこの勉強でわかった」「わからなかった英語がスキットをつくってわかるようになった」「あなたは何かができますか？を習ってよかった。お母さんに覚えたものを全部教えたい」等の感想があった。児童が緊張がほぐれるようなゲームをしたりスキット練習をすることで、安心感をもって発表ができた。また、発表後発表グループに聞き手はコメントをいうことで相互理解を図ることができ、伝え合おうとする態度の育成をはかることができた。

⑥ グループ活動の有効性について

グループ活動は絵本の続きを話し合って思考を広げる場面のオリジナルスキットづくりから発表まで行った。グループは男女混合で4～5人で編成した。「グループで一緒に発表することは好きですか」のアンケートでは、事前「好き、どちらかといえば好き」が91%から100%に9ポイント増加した（図4）。その理由として「安心して発表できる」「友だちといっしょだとはずかしくない」「仲間のきずなが深まった」「助け合ってできた」等の感想があった。

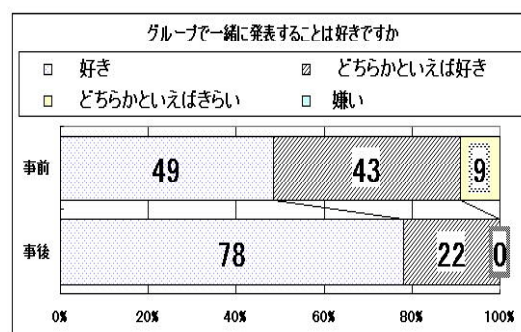


図3 グループでの発表について

グループ活動が安心感があって思いや考えが膨らみ助け合っ活動できる形態であったと考える。また、感想にあるように仲間と協力しあって発表できたと実感することで、児童の気持ちの負担を減らし、活動を楽しみながら身近な環境問題も仲間と考えることができた。オリジナルスキットをつくる活動は、グループという形態が有効であった。

(2) 伝え合おうとする態度の育成について

本研究では、伝え合おうとする態度を育成することをテーマとし、絵本「What can you do?」「ハチドリの一としずく」の読み聞かせをして英語表現に慣れ親しませた。さらに英語ノートや絵本から習得した英語表現を使って絵本の続きをグループでオリジナルスキットをつくり発表したことで、相手に伝えることの大事さを知り、どうしたらよりよく伝わるかを思考し、グループで話し合い思考を広げ、オリジナルスキットをつくり発表することができた。絵本のメッセージを考えることで、児童の知的好奇心を刺激したと考える。図5の通り検証授業後のアンケートでは、英語で発表することが好きになった児童が66%から

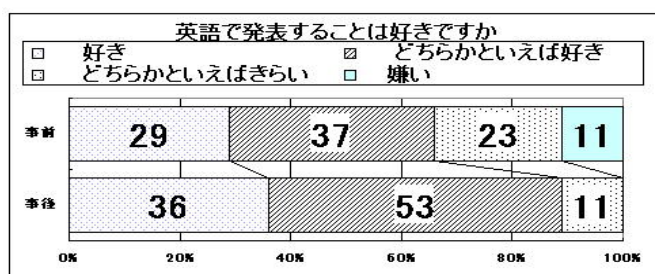


図4 英語で発表することについて

図5の通り検証授業後のアンケートでは、英語で発表することが好きになった児童が66%から

89%に23ポイント増加した。「外国語活動は好きですか」の問いについて事前は「好き、どちらかといえば好き」が97%だったが検証授業後は100%になった。また、表3の通り態度面のグループ

表7 態度面での自己評価

	☆がんばろう	☆☆できた	☆☆☆よくできた
表情	顔がみえない 表情がわからない ☆	表情がわかる 顔を上げている ☆☆	登場人物になりきって演技で きた ☆☆☆
ジェスチャー	ジェスチャーがない ☆	身ぶり手ぶりで演技しようとしている ☆☆	身ぶり手ぶりがある表現が わかりやすい ☆☆☆
声	声が小さい ☆	声が聞こえる ☆☆	声がよく聞こえる ☆☆☆
マナー	いたずらしている おしゃべりしている ☆	友だちといっしょに練習 ができる ☆☆	友だちと助け合うことができ る ☆☆☆

評価を5時から7時までに行い、表情、ジェスチャー、声、マナーの4つの観点をそれぞれ3つの評価指標に分け、「よくできた」3点、「できた」2点、「がんばろう」1点にして平均点をとった。グループで態度面をチェックして評価することで、よりよく伝えるために工夫するようになりジェスチャーや絵等でも表現するようになった。図7のように5時、6時、7時と児童の表情、ジェスチャー、声、マナーの評価が高くなっている。英語表現と合わせて言葉によらない表現を使って思いを伝え合うことができた。児童の感想では「大事なことは恥ずかしがらずに伝えたいと思うようになった」「地球を守りたい」「自分にできるエコをしたい」等の感想があることから児童は、自ら伝えたいと思うようになったと考える。以上のことから、絵本を活用したオリジナルスキットづくりは、個々の児童が考えたスキットが英語表現とジェスチャー等の表現方法の工夫で、相手に伝わったことで得られた達成感とともに伝え合おうとする態度を育成することができた。

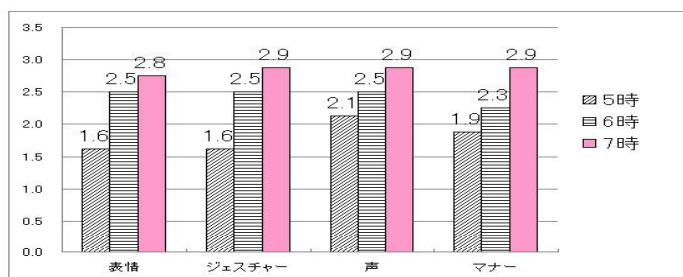


図5 児童の態度面の変化

IV まとめと今後の課題

本研究では、「英語ノート2」の単元「できることを紹介しよう」において、絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して伝え合おうとする態度を育成することができるとの仮説を立てて検証を進めてきた。以下に成果と課題をまとめた。

1 成果

- (1) 絵本からのメッセージを受け取り、恥ずかしがらずに伝え合おうとすることができた。
- (2) 絵本を活用したオリジナルスキットづくりを通して、ジェスチャーや絵など方略的能力を使って伝え合おうとすることができた。

2 課題

- (1) 一人でも皆の前で英語で発表できる手立ての工夫をすること。
- (2) 「英語ノート」の単元と関連した絵本を選択し、効果的な年間計画を作成すること。

<主な参考文献>

- 大城賢・直山木綿子 2008 『学習指導要領の解説と展開』 教育出版
 景浦攻・直山木綿子 2008 『読み聞かせの指導テキスト』 明治図書
 大下邦之 1996 『コミュニケーション能力を高める英語授業』 東京書籍